

日本学術会議 国際対応分科会 自己点検報告書

国際対応分科会(小委員会)名 IUPHAR分科会

更新日 2012/9/10

(2009/05/01の形式)

国際学術団体に関する事項

国際学術団体名

(和文) 国際薬理学連合

(欧文) International Union of Basic and Clinical Pharmacology

(略称) IUPHAR

日本学術会議加入年(西暦) 1975 年

運営組織の名称・役員の構成等

運営組織の名称(欧文) International Union of Basic and Clinical Pharmacology

	会長	会長代理/次期会長	副会長	事務局長
(氏名)	Prof. Patrick du Souich		Prof. Graeme Henderson	Prof. Sam J. Enna
(国)	Canada		UK	USA

役員選出方法の概要(120文字程度で記載)

指名委員会の候補者名簿に基づき評議会(Council)での選挙による。任期(4年)

加入国・地域の数 53ヶ国

主要加入国(10ヶ国程度を列举)

Australia, Brazil, China, France, Germany, India, Italy, Japan, UK, USA

国際学術団体のホームページURL

<http://www.iuphar.org/>

国際学術団体の年間運営経費

\$ 344,642-

日本の分担予定額[事務局で記入]

1,067千円(2012年度)

国際学術団体の活動状況

総会・学術研究集会の開催状況(過去10年間・開催年の新しいものから順に5件まで記載)

開催年 (西暦)	会議の名称	開催地	参加者数	日本からの 参加者数	学術会議共催/ 協賛の有無
2010	第16回世界薬理学臨床薬理学会議	デンマーク、コペンハーゲン	3000	305	
2008	第9回世界臨床薬理学治療学会議	カナダ、ケベック			
2006	第15回世界薬理学会議	中華人民共和国、北京			
2004	第8回世界臨床薬理学治療学会議	オーストラリア、ブリスベン			
2002	第14回世界薬理学会議	米国、サンフランシスコ			

運営に関する会議の開催状況(過去10年間・開催年の新しいものから順に5件まで記載)

開催年 (西暦)	会議の名称	開催場所 (機関等)	参加国数	日本からの 代表者名	学術会議の 代表派遣数
2012	IUPHAR Executive Committee meeting	Basel, Switzerland	11	飯野 正光	0
2011	IUPHAR Executive Committee meeting	Paris, France	11	飯野 正光	0
2010	IUPHAR General Assembly	Copenhagen, Denmark	45	三品 昌美 飯野 正光 成宮 周	0
2010	IUPHAR Executive Committee meeting	Copenhagen, Denmark	15	三品 昌美 飯野 正光	0
2009	IUPHAR Executive Committee meeting	Cairo, Egypt	15	三品 昌美	0

出版物等(主要な定期刊行物・不定期刊行物を刊行頻度とともに箇条書きで記載)

Pharmacology International (定期的、年2回)
IUPHAR Nomenclature in Pharmacological Reviews (不定期、年4回程度)

活動状況(各項目につき過去5年間の状況を120文字以内で記載)

<p>国際機関等の提唱で行った活動</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ IUPHAR-WHO, Clinical pharmacology in developing countries, WHO recommendation on clinical pharmacology, WHO drug information, a core curriculum I clinical pharmacology.
<p>国際機関等への提言等</p>
<p>国際事業等への参加・実施等</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ ICSU, preparation of a Statement on Integrity in Science ・ IUTOX, arrangements of joint symposia for the IUTOX and IUPHAR Congresses in 2010 ・ IUPS, joint symposia at IUPS Congress in 2009 and IUPHAR Congress in 2010 ・ ICLA, program for the International Harmonization of Guidekines for Animal Care: Protocol Review and User Training.
<p>全世界的/地域的研究課題への取組み</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ Pharmacology for Africa (PharfA) アフリカ諸国で薬理学会組織が立ち上がる手助けをすることにより、アフリカにおける薬物治療による疾患の克服と人々の福祉に寄与する ・ NC-IUPHARによる受容体・イオンチャネルに関する知識の整理、意見の統一、ウェブサイト運営、出版。
<p>発展途上国への対応</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 第15回世界薬理学会議(2006年)を中国で開催し、さらに第17回世界薬理学会議を南アフリカで2014年に開催することを決定した。 ・ 2009年開催の理事会において、アフリカ大陸の各国に薬理学キャラバンを派遣し、アフリカ諸国で薬理学会組織が立ち上がる手助けをすることにより、アフリカにおける薬物治療による疾患の克服と人々の福祉に寄与することを決定した。

関連学術分野の動向と今後の重要課題(120文字以内で記載)

<p>Clinical Pharmacology, Neuropharmacology, Pharmacogenetics, Teachingに加え、新たに Natural Products Sectionを設置した。</p>

国内における国際学術団体への対応状況

国際学術団体の役員就任状況(過去10年間・新しいものから遡って5件まで記載)

国際学術団体における 役職名	氏名	任期	
		開始年	終了年
2nd Vice President	飯野 正光	2010	2014
2nd Vice President	三品 昌美	2006	2010
2nd Vice President	遠藤 實	2002	2006
Councillor	遠藤 實	1998	2002
Past President	江橋 節郎	1994	1998

学術会議の国際対応分科会(小委員会)名 IUPHAR分科会

学術会議以外の国内対応組織・委員会等

日本薬理学会、日本臨床薬理学会

国内の関連学協会等の状況(主要なもの5件まで記載)

学協会の名称	会員数	学協会のホームページURL
日本薬理学会	5642	http://www.pharmacol.or.jp/
日本臨床薬理学会	3056	http://www.jscpt.jp/

学術会議の国際対応分科会(小委員会)の活動状況

学術会議の国際対応分科会(小委員会)名	IUPHAR分科会
所属分野別委員会	基礎医学委員会

分科会(小委員会)の構成

委員長	副委員長	幹事	
飯野 正光	赤池 昭紀	尾崎 博	三品 昌美

会員数	連携会員数	特任連携会員数
1	4	0

分科会(小委員会)の活動方針(箇条書きで120文字以内で記載)

- ・ IUPHAR との連携(分科会委員長は Second Vice PresidentとしてIUPHAR Executive Committeeの活動に参画)
- ・ 2018年に京都で開催する第18回世界薬理学臨床薬理学会議を成功させる(分科会委員長はSecretary Generalとして学会開催準備に参画)
- ・ The Southeast Asian Western Pacific Regional Federation of Pharmacologists (SEAWP-RFP)との連携(分科会委員長は Executive として活動に参加)。なお、SEAWP-RFPは2012年より Asia Pacific Federation of Pharmacologistsと名称変更した。
- ・ The Australasian Society of Clinical and Experimental Pharmacologists and Toxicologists (ASCEPT)との連携
- ・ The American Society for Pharmacology and Experimental Therapeutics (ASPET)との連携

今期の会議開催状況(開催日時の新しいものから遡って6回まで記載)

会議開催日時 (2009/05/01の形式)	主な審議事項・議題等
2012/3/15	2018年世界薬理学臨床薬理学会議の開催準備会議 2018年世界薬理学臨床薬理学会議開催に関するIUPHARとの契約書を承認
2011/10/1	2018年世界薬理学臨床薬理学会議の開催準備会議
2010/6/21	2018年世界薬理学臨床薬理学会議の日本招致委員会
2010/1/28	副委員長及び幹事の選出について
2010/1/27	委員長の選出について
2010/1/13	2018年世界薬理学臨床薬理学会議の日本誘致活動およびIUPHAR世界大会(2010年7月、コペンハーゲン)のdelegates候補者について

日本における国際学術団体の活動の周知・広報の状況(箇条書きで120文字以内で記述)

- ・分科会委員長は、オブザーバーとして日本薬理学会理事会に参加しており、随時、IUPHAR理事会の活動やSEAWP-RFP執行部の活動を報告している。
- ・IUPHARの機関誌であるPharmacology Internationalを電子媒体で広く会員に配布している。また、Pharmacology International No. 68 (June 2007)に日本薬理学会創立80周年の記事を掲載し、総会等でも紹介した。

国際対応における国内学協会との連携状況(箇条書きで120文字以内で記述)

- ・分科会委員長は、日本薬理学会と日本臨床薬理学会が合同で2018年の世界薬理学臨床薬理学会議を招致することを提案し、招致委員会が発足させた。2010年のIUPHAR世界大会開催時の総会における投票により開催国が日本に決定された。2012年5月にIUPHARとの2018年大会に関する契約書を取り交わした。
- ・2012年より、NC-IUPHARに日本からの委員2名が新たに参加することとなった。これにより、日本の学術的な立場を一層強めることができるようになった。

特記事項・国際委員会による指摘事項等への対応状況(箇条書きで120文字以内で記述)

- ・日本薬理学会と日本臨床薬理学会が共同で2018年の世界薬理学会議招致委員会を発足させ、立候補を表明するなど活発な活動を展開し、招致に成功した。
- ・IUPHARの機関誌であるPharmacology International No. 68 (June 2007)に日本薬理学会創立80周年の記事を掲載し、Pharmacology International No. 70 (June 2008)のIUPHAR50周年記念号に日本の薬理学の紹介記事を掲載するなど、活発に活動した。

分科会・小委員会活動の自己評価等(箇条書きで120文字以内で記述)

- ・分科会委員長がIUPHAR理事会、SEAWP-RFP執行部、日本薬理学会理事会に加わっており、国際連携を確実に推進することができた。また、2018年開催の第18回世界薬理学臨床薬理学会議の日本招致に成功しており、これを契機にさらに国際連携を深めて行きたい。また、NC-IUPHARに日本選出の委員2名を新たに加えることができたので、日本の学術的な国際的立場を強化できた。